

琵琶湖の沿岸食物網の解析

目的：魚類の胃内容物によって各魚種の食性を調べ、捕食者と餌生物の相互作用を調べる

方法：投網、刺し網を用いて採集した魚類を解剖して胃内容物を調べた

解析結果

魚種	体長	胃内容物
オオクチバス	116.27	エビ(100%)
オオクチバス	108.53	無し
オオクチバス	96.5	魚類(100%)
オオクチバス	77.5	無し
ウグイ	84.9	糸状藻類(100%)
ウグイ	79.82	糸状藻類(100%)
ウグイ	76	無し
ウグイ	67.05	ベントス(30%)、糸状藻類(40%)、デトリタス(30%)
ビワヒガイ	71.3	ミミズ(100%)
ビワヒガイ	68.1	トビケラ(80%)、魚類(20%)
ビワヒガイ	67.8	ミミズ(50%)、デトリタス(50%)
ビワヒガイ	65.6	失敗
ヌマチチブ	78	藻類(100%)
ヌマチチブ	69.78	無し
アユ	84.5	糸状藻類(100%)
アユ	79.27	ベントス(100%)
ブルーギル	185.8	水草(100%)

高次消費者

オオクチバス

二次消費者

ビワヒガイ

1.5次消費者

エビ

アユ

ウグイ

一次消費者

ユスリカ

トビケラ

ミミズ

ヌマテチブ

ブルーギル

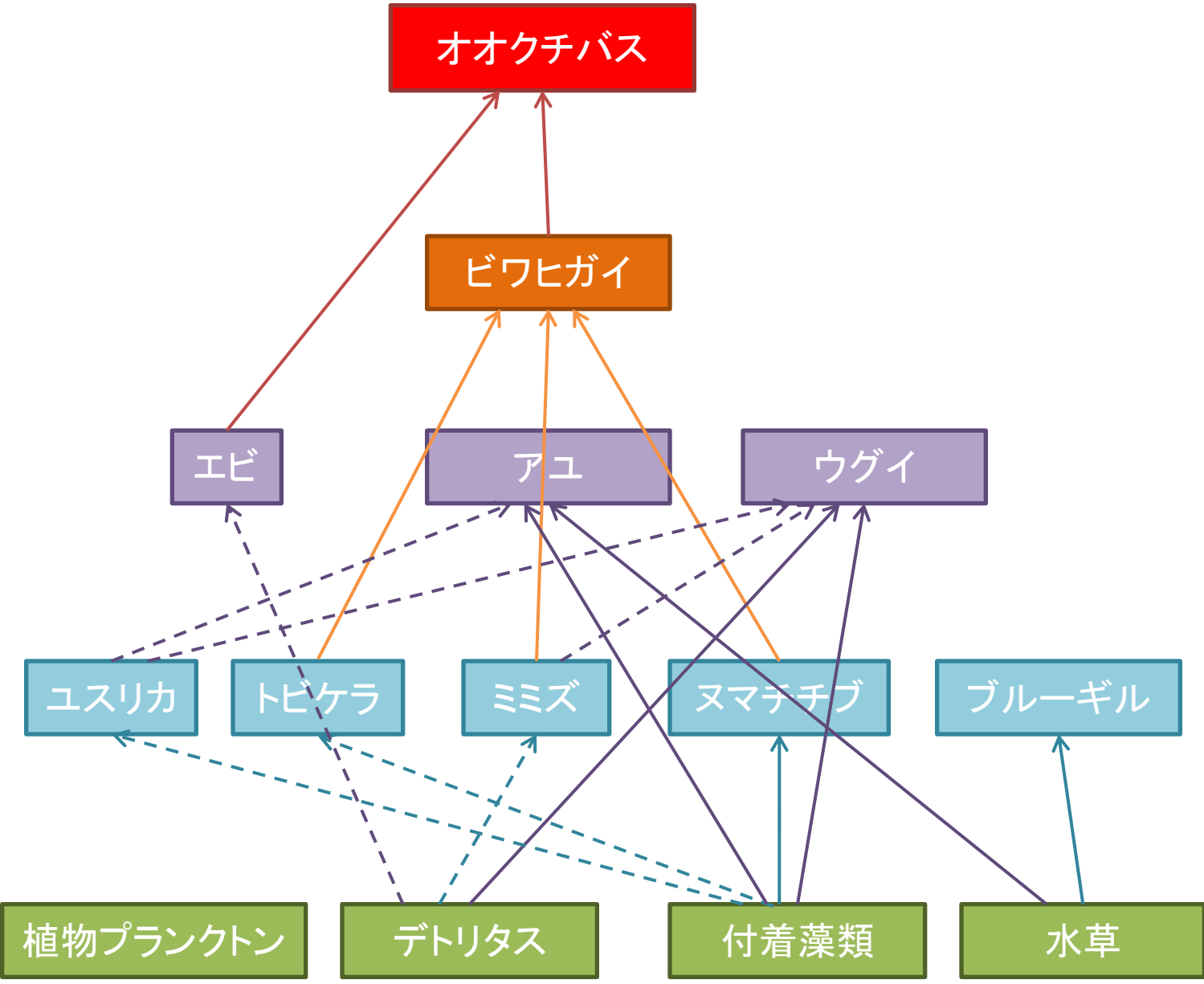
一次生産者

植物プランクトン

デトリタス

付着藻類

水草



- オオクチバスは肉食魚と考えられる。
- ヌマチチブ、ブルーギルはそれぞれ付着藻類、水草を主に摂取していると考えられる(調べた個体数が少ないので、確実ではない)。
- 他の魚類は雑食であった。